

良識ある保守主義・情報公開

吉田つとむ

町田市議会議員（4期連続トップ当選）

〒194-0011 町田市
成瀬が丘1-14-12
サンホワイトE103-13
☎ 042-795-7361(FAX:必要に応じて186を頭に加える)
議会 042-724-2171
yoshidaben@gmail.com



つがる市田小屋野貝塚と成人女性の人骨

世界文化遺産 北海道・北東北の縄文遺跡群

青森県つがる市の田小屋野貝塚は、縄文時代前期から中期（約6,000～4,000年前）の貝塚です。貝塚は自然にできたものではなく、人が食べた貝の貝殻を一定の場所に廃棄して堆積してできたものです。現在、日本では2700カ所が見つかっていますが、貝塚は河口や湾になっている場所が多く、田小屋野貝塚も以下の理由で水辺にありました。縄文時代の当時、気候が温暖で、海平面が高く、汽水湖（海と川の水がまじりあう湖）である現在の十三湖がもっと大きく、この田小屋野貝塚や、隣接する亀ヶ岡縄文遺跡も旧十三湖のほとりにありました。現在の十三湖もシジミをはじめとする魚貝類に恵まれた場所となっています。

その田小屋野貝塚周辺には竪穴式住居があり、墓（土坑墓）もいくつも見つかっており、その中で一つの墓の遺体が貝塚のカルシューム分によって土壤の酸性が中和され、偶然にも成人女性の人骨がほとんど傷なく残っていたものが2012年に発見されました。人骨はこの一体のみが見つかり、様々な研究にも供されています。つがる市やその学芸員の方は今後の発見にも期待されていました。



つがる市町田式水耕栽培メロン実証試験

無所属会派の会派視察でつがる市を訪ねる

青森県つがる市は特産のメロンが全国第3位の生産量を誇り、訪れた農家も大規模栽培で安定農業を目指していました。弘前市を中心とする津軽地方はリンゴの産地で有名ですが、つがる市はスイカ栽培から転じたメロンの特産地であり、かつ、町田式水耕栽培メロンをハウス内で試験導入し、年間を通じて出荷できる生産地化を目指しています。かつ、座った作業が多い旧来のメロン栽培を、種付けから収穫まで立ち作業で行える町田式水耕栽培メロンの試験事業を行政機関が経済活動支援として取り組み、その実用化を目指しているものです。



今回、つがる市はその町田式水耕栽培メロンの試験面積を拡大し、ハウス全体に拡張していました。いよいよ、この秋の収穫では一般販売ができる体制を迎えようとしていました。生産を担当しているのは観光・ブランド戦略課と言い、専任の担当者を置き、東京事務所には「果房 メロンとロマン」を設置し、その実践的な普及経営を図っていました。

○支持政党なしの方々の代表=吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。

○吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

◎町田市内企業が開発した「水耕栽培メロンの世界一決定戦」を開催しよう！

●吉田つとむは令和4年2月実施の市議会議員選挙で、4期連続のトップ当選を果たしました

若い世代の育成に全力をささげる
町田市議会議員(4期連続トップ当選)

吉田つとむ



ブログ

個人HP
メールは
左記を読み
込んで送信



好評インターンシップは、
夏季休暇期間中の募集終了

インターン体験記：酒井優子⑧-1

私は今までビックサイトでのイベントは、東京モーターショーといったお祭り感のあるものにしか参加したこと�이ありませんでした。そのため今回の自治体・公共 Week2024 は今までのイベントとは雰囲気が違った新鮮さでした。

私の感じた違う一つ目は、客層です。お祭り感のあるイベントには比較的若い人が多いです。しかし、今回のイベントでは、私のような学生の姿はあまり見られず、仕事で来られているような社会人の方が多い印象でした。



二つ目の違いは、出展者の売り込み方です。お祭り感のあるイベントでは、出店物自体が、来場者が楽しめるようにアトラクション形式のものが多い印象があります。しかし、今回の展示では、どこを歩いていてもビラが四方八方から差し出されるくらい、出展者の方が営業を積極的に行っていました。

私が驚いたのは、大手企業の出店物が、CMで宣伝しているような代表的な事業ではなく、あまりその企業のイメージがない事業の商品を展示していたことです。こういった展示の場で、企業の新たな一面を知れるというのが、イベントの醍醐味だと感じました。

東京都立大学2年生 酒井優子(第53期生)

インターン体験記：松村絵美里⑯

今回は、東京国立博物館の表慶館での「結MUSUBI」展と東京都庭園美術館にて「YUMEJI」展に足を運びました。東京国立博物館での展示では、カルティエと日本の関係を読み解くことのできる一次資料が数多く展示されていました。日本の植物紋をモチーフとしたブローチやブローチの原案たちは、日本の文化に着想を得ていたであろうという跡を見ることができました。西洋家紋の動物モチーフとの違いの認識が確かにあったと理解できました。

つぎに、竹久夢二展に向かい、日本的な書画から西洋的な絵画への変遷にあたる「大正ロマン」を感じることができました。代表的な美人画から、東京での初展示となった『アマリリス』など貴重な油彩画を見ることがありました。夢二の興味関心が海外に向かい、実際に外へ飛び出していった経歴は、作品に如実に反映され、アップデートされ続けていたことが、時代毎の展示により、とても分かりやすかったです。一方、農作業を行っている婦人モチーフの絵など、夢二の日本での「生活の中の美」の意識がよく分かるものもありました。様々な芸術作品を鑑賞し、大変勉強になる充実した時間を過ごすことができました。



筑波大学4年生 松村絵美里(第45期生)

松村さんは高校2年～大学1年で参加。来年3月卒業、4月就業の予定で順調に進んでいます

◎吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、2024年5月末までに107名が参加しました。

◎インターン生に政治活動の参加は一切求めず、あくまで社会勉強・見学のメニューです。